



高崎のぞむさんの生育歴

「高崎のぞむ」さんは26歳の男性です。現在は、父親と母親と一緒に自宅で生活しています。のぞむさんには4歳上の姉がいます。姉は2年前に結婚し、家を出ています。

のぞむさんは、大柄で、身長が172センチ、体重が105キロあります。体重については、10年程前は60キロ少々でしたが、毎年コンスタントに増えてきています。最近、高血圧気味で、かかりつけの内科医からは、食事制限や運動をするように指導されていますが、家庭で対応することは難しくなっています。

生まれたばかりののぞむさんは、元気な赤ん坊で、母親は姉よりも手のかからない子だと思っていました。しかし、発語が遅く、1歳半になっても大声で泣き続けるか、口をモグモグするだけで、言葉を発することはありませんでした。小児科や保健師の紹介で、市内の療育訓練や相談窓口に通い、3歳からは同じような障害のある幼児たちが通う通園施設に毎日行くことになりました。医師から、知的な発達の遅れと自閉症と診断されたのは4歳の時でした。

簡単な単語を話すようになったのは、小学校に通い始めた頃からです。学校は、当初、地域の学校の特別支援学級に通っていましたが、クラスメートと同じように学習ができなかったので、5年生からスクールバスを使って特別支援学校に通うようになりました。当時を振り返ると、道路工事現場や子どもの泣き声といった極端に嫌いなこともありましたが、家族としては、話す単語に限られること、他の子どもたちと一緒に行事に参加することが難しいことなど、将来に対して漠然とした不安を感じていたようです。

生活が変わったのは、特別支援学校の中等部の2年生からです。近所のコンビニで、親で買物に来ていた3歳位の子どもを突き飛ば

して、ケガをさせてしまったのです。ケガはもちろんですが、3歳の子どもとその母親の恐怖心は相当のものだったようで、店舗内は大騒ぎ、警察もやってきて母親が事情聴取を受けることになりました。のぞむさんは、事の重大さをわかっている素振りもありませんでした。家族は、のぞむさんを連れて近所に買い物や散歩に出かけられなくなりました。外出は、月に1～2回、車でドライブに出かけ、比較的広々とした郊外で少し散歩をすることがやっとでした。

次第に、学校や家庭で断続的に唸るような大声をあげたり、ドンドンと床を強く踏み鳴らしたりするようになり、高校生になった頃には、先生や親に頭突きをしたり腕や肩を強くつねる行為が目立つようになってきました。大人数の集団が苦手なのぞむさんは、高校を卒業してから毎日10数人が通ってくる比較的小さな作業所に通いはじめました。しかし、そこでも大声をあげ床を強く踏み鳴らしたり、他の利用者へ頭突きをするなどの他害行為が続いたため、1年半で退所することになりました。そしてしばらく在宅生活を送った後、20歳から現在まで新しくできた生活介護事業所「あじさい」に通うようになりました。

あじさいでは、のぞむさんの行動に対して、専門的にどのような対応が可能であるかを、真剣に職員同士で検討して支援を行っていました。通所中や家庭内では、以前より少しずつ行動が落ち着いています。のぞむさんの両親は、のぞむさんに深い愛情があり、今も、親としてできる限りのことをやり続けたいと考えています。愛情の深さは、のぞむさんの日々の服装や、持ち物に書かれている名前を見るとわかります。また、のぞむさんのための週末ドライブは、10年以上たった今も続けられています。

サービス等利用計画【要約】

氏名 高崎のぞむ

インタビュー (情報の収集・整理)	アセスメント (評価)		プランニング (支援計画)
<ul style="list-style-type: none"> ●26歳男性 自閉症 重度知的障害 ●身長172センチ 体重105キロ ●高等部卒業後、8年間で45キロ体重増加 ●高血圧(100-160) ●14歳の時に近所のコンビニで3歳の子を突き飛ばし怪我をさせている ●その後も学校や施設の外出中に幼児の方に向かっていく場面を数回制止している ●子どもの泣き声はテレビから聞こえても不機嫌 ●外出は、施設の送迎と父親がドライブに連れていく以外に外出経験なし ●DVDカセットのセット作業や洗濯ばさみの袋詰作業など、単純な工程の仕事が可能 ●書類やチラシの封入等、手先の巧緻性が求められる作業は手順の学習は可能だが、製品としての完成は難しい ●個別化された作業環境だと、一度に20分から日によっては1時間近く継続して作業に取り組むことが可能 ●休憩時間は他の利用者や職員の動きが見える環境だと落ち着かなくなるため、静養室のソファで横になっていることが多い ●静養室での活動は特になく、長時間休憩が続くと不穏状態になり、頻繁に静養室を出入りし、床を強く踏みならしはじめる ●写真を使った指示で活動がいくつか理解できている ●ときどき笑顔を見せ、支援員に近寄ってくることもあるが、しばらくしてから興奮状態になる場合もある ●入浴や歯磨き(うがい)が1時間以上たっても終わらないことが多々見られる ●2か月前、歯磨きの中止を指示した父親に、コップを投げつけ、目に大けがを負わせる(その後休日のドライブが行けていない)。 	<p style="text-align: center;">生物的なこと (疾患や障害、病気など)</p>	<p>①ダイエットと生活習慣病予防</p> <p>②支援付きの外出手段の確保</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○昼食に満腹感を与える低カロリーメニュー ○日中活動に毎日散歩の時間を組み入れる(時間や歩行距離は計画的に増やす) ○休憩時間に個別に深呼吸の練習 ○相談支援事業と行動援護利用の調整(早急のサービス開始に向けて) ○行動援護事業所と具体的な支援方法の確認(支援員が複数同行予定)
	<ul style="list-style-type: none"> ●中学生から強度行動障害の状態が続いている重度の知的障害のある自閉症 ●生活習慣病の対策が必要 ●健康・衛生に配慮した詳細な援助は行いづらい ●とっさに乳幼児を突き飛ばすリスクがある ●女性や子どもの甲高い声は嫌い ●混乱し興奮すると数時間単位で不穏状態が続き、場合によっては周囲の人がケガをするリスクがある 	<p>③穏やかに日中活動の時間を過ごす</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○1日に作業1種類、自立課題6種類を準備 ○1日単位の個別のスケジュールを当面固定 ○スケジュールの伝達方法を調整 <ul style="list-style-type: none"> ・スケジュールの提示場所は静養室 ・3つ程度の活動を写真・カードで提示 ・静養室の休憩時間の終わりはタイマー ○スケジュールの変更時には家庭に連絡 <ul style="list-style-type: none"> ・家庭での影響を確認
	<p style="text-align: center;">心理的なこと (不安、葛藤、希望、感情など)</p>	<p>④定期的なショートステイの利用</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○月に2回(各1泊)生活介護事業所併設のショートステイを活用(要調整) <ul style="list-style-type: none"> ・曜日の固定 ・他の利用者との調整 ・宿泊時に必要なものを確認 ・夜間と早朝のスケジュールを確認 ・最初の実施日
	<p style="text-align: center;">社会的なこと (家庭、施設、学校、地域資源など)</p>		
	<ul style="list-style-type: none"> ●一人でやる作業や自立課題は20分程度集中して取り組む ●とっさに何らかの慣れ親しんだ行動を取ろうとする時に静止すると興奮することが多い(大声・床を踏みならす・頭突き等に表れる) ●周囲の人のとっさの動きに反応し興奮することがある ●刺激が少ない場所で、一人であることを好むが、30分以上続けると興奮することがある ●笑顔や人との関わりを求める行動がかならずしも快適な状況の表現とは限らない ●歯磨きや入浴といった活動の終了が理解できない 		
	<ul style="list-style-type: none"> ●両親は愛情をもって接しているが、今後も長期間この生活を続けることの困難さを感じている ●家庭以外での外泊経験は15年以上経験していない ●2年を目処に複数箇所のグループホームの設置が検討されている(行動障害対応が可能か不確定) 		

サービス等利用計画【週間計画表】

利用者名	高崎 のぞむ	障害程度区分	区分 5	相談支援事業者名	相談支援センターかわせみ
障害福祉サービス受給者証番号	*****			計画作成担当者	国立 希美
地域相談支援受給者証番号	*****			計画開始日	2014年7月

	月	火	水	木	金	土	日・祝
6:00	起床	起床	起床	起床	起床		
8:00	朝食	朝食	朝食	朝食	朝食	起床	起床
	事業所の迎え	事業所の迎え	事業所の迎え	事業所の迎え	事業所の迎え	朝食	朝食
10:00	生活介護 あじさい	生活介護 あじさい	生活介護 あじさい	生活介護 あじさい	生活介護 あじさい		
12:00						昼食	昼食
14:00	事業所の送り	事業所の送り	事業所の送り	事業所の送り	事業所の送り	行動援護 (ドライブ等)	
16:00							
18:00	夕食	夕食	夕食	夕食	夕食	夕食	夕食
20:00							
22:00	就寝	就寝	就寝	就寝	就寝	就寝	就寝
00:00							
02:00							
04:00							

主な日中生活上の活動	週単位以外のサービス
父親の怪我で外出（ドライブ）が出来なくなって以来、外出機会が極端に少ない。生活介護への通所は安定している。夕食前の空き時間に自立課題を実施する。	2ヶ月に1回、精神科医に通院する。通院は保護者の送迎による。月に2回、生活介護事業所併設のショートステイを利用する。

サービス提供によって実現する生活の全体像	日中活動には安定した通所が可能であるが、他害等が時折見られており、1日を穏やかに過ごせるようになるにはまだ課題がある。生活介護での安定した日中活動への取り組みを図るとともに、週末の行動援護、月2回のショートステイの利用を進めることで、家庭と生活介護以外の場への生活の広がりが期待できる。家族のレスパイトとしても重要であり、本人も含めた家庭全体の安定を図る。
----------------------	--

個別支援計画					
利用者名	高崎 のぞむ	障害程度区分	区分5	相談支援事業者名	生活介護事業所 あじさい
利用開始日	2008年5月10日			計画作成担当者	赤城 あきら
モニタリング実施日	2014年6月10日			計画開始日	2014年7月1日

利用者及びその家族の生活に対する意向（希望する生活）	<ul style="list-style-type: none"> ・自傷や他害が少なくなって欲しい（穏やかに生活を送ってほしい）。 ・体重が気になるので、ダイエットをして痩せて欲しい。 ・外出ができていないので外出させてあげたい。できれば、外で色々なことを体験させてあげたい。
総合的な援助方針	<p>のぞむさんの障害特性や現在有している能力・スキルを活用した支援を提供し、①落ち着ける（安心できる）生活環境の中、②自立的に活動を過ごせるよう支援を行う。</p>
長期目標	<ul style="list-style-type: none"> □ 安心でき自立的に活動できるよう支援を行い、併せて自傷や他害といった行動の生起数を半分にする。 □ ケアホームでの生活を視野に入れ、より自立的に過ごせるよう支援を行う（Ex. 歯磨き、トイレ、余暇等、生活内での様々な場面）。
短期目標	<ul style="list-style-type: none"> ■ 作業を自立的に実施できるよう、（環境調整を含め）支援を行う。目標としては、15分間継続して作業に取り組めるよう支援する。 <ul style="list-style-type: none"> ※ 作業に関しては2週間に1回のミーティングを行い、実施状況を確認すると共に、必要な支援方法を検討し準備、実践を行う（計4回の実施を予定）。 ※ 普段の引き継ぎ、情報共有の手段として「作業記録・引継ぎ帳」を使用する。 ■ 食事制限+散歩（運動）を実施し、半年間で5～10kgの減量を目標とする。

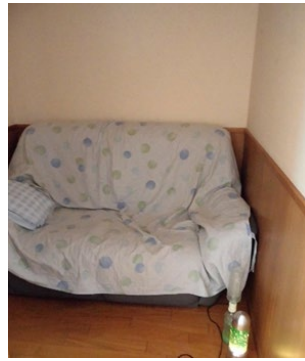
ニーズ	支援目標	サービス内容	頻度・時間	提供先・担当
ダイエットと生活習慣病予防（医学的ニーズ）	体重の減量（ダイエット）を目標とし、併せて生活習慣病の予防を行う	<ol style="list-style-type: none"> ① 昼食に、満足感を与える低カロリーメニューの提供 ② 日中活動に散歩の時間を入れる（時間や歩行距離は、計画的に増やす） ③ 休憩時間に、個別に深呼吸の練習を行う 	昼食（毎日） 13:00～13:45（毎日） 休憩時間（休憩時毎）	●生活介護事業所 ・栄養士 ・調理師 ・看護師 ・支援員 （主に②③）
穏やかに日中活動の時間を過ごす（家族のニーズ）（関係者のニーズ）	穏やかに生活が過ごせるよう、本人に適した環境調整や日中活動を提供する	<ol style="list-style-type: none"> ① 作業、及び自立課題の提供 ② 個別のスケジュールの提示 ③ スケジュール伝達方法の調整 <ul style="list-style-type: none"> ・1回の提示数は3枚程度 ・スケジュール変更時は、保護者に連絡を行う 	毎日 毎日 適時	●生活介護事業所 ・支援員 ・（保護者）

生活介護事業所「あじさい」

- ① 9:10 事業所公用車にて送迎（自宅玄関で待つ）
- ② 9:30～15:00 「あじさい」にて活動
- ③ 15:00 事業所公用車にて自宅へ送迎（自宅到着後、保護者へ引き継ぎ）



生活介護事業所「あじさい」全景



静養室（ソファー）



多目的ホール



廊下（静養室⇔作業室）



作業室

時間	活動	サービス手順
9:30-10:00	来所	【スケジュール1：朝の準備】
10:00-10:45	班別活動	【スケジュール2：DVD組み立て】
10:45-11:00	お茶休憩	【スケジュール3：お茶休憩】
11:00-11:45	班別活動	【スケジュール4：DVD組み立て】
11:45-12:45	昼食・昼休み	【スケジュール5：昼食】
12:45-13:30	散歩	【スケジュール6：散歩】
13:30-14:35	自立課題	【スケジュール7：自立課題×2回】
14:35-15:00	帰り	【スケジュール8：帰宅】

支援の留意点①（期間：2014年7月1日～10月1日）

ワークシステム

- 高さ190cm のパーテーションを3 方向に設置
- 座席の背面は100cm の長さのカーテン
- ワーク中は、原則パーテーションの入り口のカーテンを閉じて外から見守る
- 左の3 段の棚のトレイのワークを上から1 つずつ実施し、「おわりの箱」に入れる
- すべてのワークが「おわりの箱」に入った時点で休憩の場所に移動

作業・自立課題

- 1 回の作業や自立課題は15 ～ 20 分程度
- 作業量（DVD ケース組み立て60 ケース、洗濯バサミの袋詰めは40 袋）
- 自立課題（1 課題5 分から10 分のを3 課題）
- 通所前に作業 1 種類、自立課題 6 種類をセットして教材棚に入れておく

休憩

- 個室の静養室を専用の休憩場所とする
- 休憩の修了の合図はアラーム（休憩開始時に支援員がタイマーセット）
- スケジュールは静養室に設置

スケジュール

- スケジュールは写真で半日程度（通所前と昼食時にスケジュールをセット）
- 写真は確認したらボード下のポケットに入れる
- 室内の目的の場所や物に目印としてスケジュールと同じ写真を貼っておく（指差しで確認）

コミュニケーション等

- 1m くらいに近づき、視界に入ったことを確認してから言葉がけをする
- 言葉がけは落ち着いた声で「高崎さん」「スケジュール」「手洗い」等、単語で
- 各活動の動作が分からなくなっているときは、名前を呼んで手本を示す
- ワークや休憩中に声が大きく・激しくなってきたら、「落ち着いて」と深呼吸を促す
- 落ち着かず床を叩いたり、頭突きが見られたら、「休憩」と指示して静養室に移動、様子を見守る（落ち着いてきたら「落ち着いて」と深呼吸を促し、更に5 分程休憩して次のスケジュール）
- 落ち着かない時間がしばらく続いた場合、その時間のスケジュールは省く

追加情報

保護者より、自宅での余暇の過ごし方等について教えていただきました。

- のぞむさん宅では、余暇を過ごすものを【余暇グッズ】と呼んでいました
- 下の余暇グッズの右側括弧内の数字は、過ごせる目安の時間だそうです

余暇グッズ一覧

- DVD
「お母さんと一緒」のような児童向けのものも見るが、10分程度でどこかに行ってしまう。
以下のDVDが現在は大好きで、最初から最後（字幕）まで見ている。ただし途中で終われないので時間があるときしか、本人に見るかどうかを聞かない。
 - ・「モータースポーツ DVD WRC で証明したラリーパワー 「スバル インプレッサ WRX」改訂復刻版」(48分)
 - ・「ザ・建設の車 スペシャルバージョン」(45分)
- CD (30分以内であれば、曲が終わるまで聞いている)
 - ・AKB48
 - ・童謡（最近のお気に入り「ブンバボン」。ただし、曲に合わせて跳ぶとのこと）現在、外出を想定してポータブルCDプレーヤーを家でも使っている。また「イヤーマフの代わりになるかな」との母親の考えでヘッドフォンを試行。結果的にポータブルCDプレーヤーとヘッドフォンを家でも使っている。
- マッサージ機 (20分：全身リラククスコース)
- レゴブロック（長いときで30分程度）
日によっては、急にブロックが入っている容器（バケツ）ごと投げ散らかすことがある。
- 雑誌めくり (5分程度 (1冊))
- ミニカーの車輪を回す (5~10分)
ただし、新しいミニカーだと20分ぐらいしていることがある。
- アルバムめくり (10~40分)
自分の写真を見ている。新しい写真がアルバムに入った日は、長い時間見ている。
- ゴムボール (?分)
(家では) 持っているとう安心するのか、食事やお風呂、寝るとき以外は持っていることが多い。ただ、家の外に持って行こうとすることはない。

余暇の片付け方

- 余暇グッズの写真をカゴに貼っておくと、カゴの中に片付けることができる。
(現物とのマッチングもできるが、几帳面に上に重ねようとする。重なるときは良いが、バランスを崩して落ちたりすると、逆にイライラ興奮の原因になる)
- 片付ける場所は、決まった場所に設定。
- 散らばった状態が不快のように感じる。
(片付いていないとイライラしているように感じる)



行動援護計画

作成年月日 2014年 9月 1日

提供責任者 榛名 和雪

担当ヘルパー 妙義、浅間、大山、榛名

障害種別	知的障害、自閉症			障害程度区分	5
利用者氏名	高崎のぞむ 様	性別	男性	生年月日	1988年 7月 7日
住所	*****			電話番号	*****
長期目標	<input type="checkbox"/> バス停から自宅までの往復を安全に移動できる。 <input type="checkbox"/> バス移動（乗降、及び車中の過ごし方）をスムーズに実施できる。				
サービス内容	曜日	時間帯	サービス内容		
	土	14:00~17:00	行動援護（余暇支援）		
ご本人の希望				ご家族の希望	<ul style="list-style-type: none"> ■外出ができていないので外出させてあげたい。できれば、外で色々なことを体験させてあげたい。 ■体重減量のためにも、運動をさせて欲しい。
ニーズ・課題	短期目標			サービス内容・留意点	
①外出の予定が分からないと不安になり他害が起きることがある	見通しを持って安心して外出を行う。			スケジュール（写真）で予定をお伝えします。又、具体物や高崎様が理解されている単語を使ってコミュニケーションを行います。	
②バスの中で降車ボタンを押したり、急に動いたりおりようとするところがある。	車中の15分間を、快適に過ごす。			危険が無いよう常に近くで見守り、もしくは手をつなぎ、場合によっては行動を制止します。	
③バス降車の切替えがスムーズに出来ないことがある	バスの降車をスムーズに行う。			危険が無いよう常に近くで見守り、もしくは手をつなぎ、場合によっては行動を制止します。	
④運動（散歩）の実施	キャンパス内を散歩する（約30分×2）。			「のぞみ大学」キャンパス内を散歩します。その際目的地を学生食堂前の自販機とします（片道30分のコース）。自販機にて、ジュース又はアイスクリームを買います。	
⑤バス降車後の安全確保 (その他) 身支度の手伝い	降車後、自宅まで安全に案内する。			バス降車後、支援者が車道側を歩き徒歩にて自宅まで案内を行います。 バス出発の40分前に自宅へ伺い、スケジュールの再確認、及び身支度が調っていない場合、お手伝いをします。	

行動援護を利用したのぞむさんの外出

- ① 自宅から約 15 分間、バスに乗り「のぞみ大学」へ
- ② キャンパス内で散歩した後、食堂前の自動販売機でジュースとアイスクリームを購入
- ③ 学生食堂前の広場でおやつを食べて、バスに乗って帰ります



「のぞみ大学」行きのバス車内



バス停「のぞみ大学前」



学生食堂前の広場



自動販売機

